

# 手動同期方式によるCCEデータのリカバリ

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[問題の説明：ロガー/HDSデータベース](#)

[オプション1：ICMDBA手動同期（例としてロガーAからロガーB）](#)

[設定データのエクスポート](#)

[設定データの同期](#)

[オプション2：手動同期：SQL Management Studio（例としてHDS 1からHDS 2へ）](#)

[HDSデータベースのエクスポート](#)

[HDSデータベースバックアップの復元](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco Contact Center Enterprise(CCE)Historical Data Server(HDS)またはロガーからデータを回復する方法について説明します。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Unified Contact Center Enterprise ( UCCE )
- Package Contact Center Enterprise(PCCE)

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアのバージョンに基づいています。

- Unified Contact Center Enterprise(UCCE/PCCE)12.5

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

## 問題の説明：ロガー/HDSデータベース

ネットワークやサービスの停止などによってLogger/HDSでサービスが停止した場合、レポート内のデータが異なったり、欠落したりする可能性があります。データギャップがあるロガーはピア

と再同期する必要があり、その後ロガーからデータをプルするようにHDSが再設定されます。

## オプション 1 : ICMDBA手動同期 ( 例としてロガーAからロガーB )

ロガー A とロガー B 間のロガー設定データを同期するには、次の手順を実行します。

- 1.ロガーAとロガーBの設定データをエクスポートします。
- 2.ロガーAとロガーBの間でデータベースの設定データを同期します。

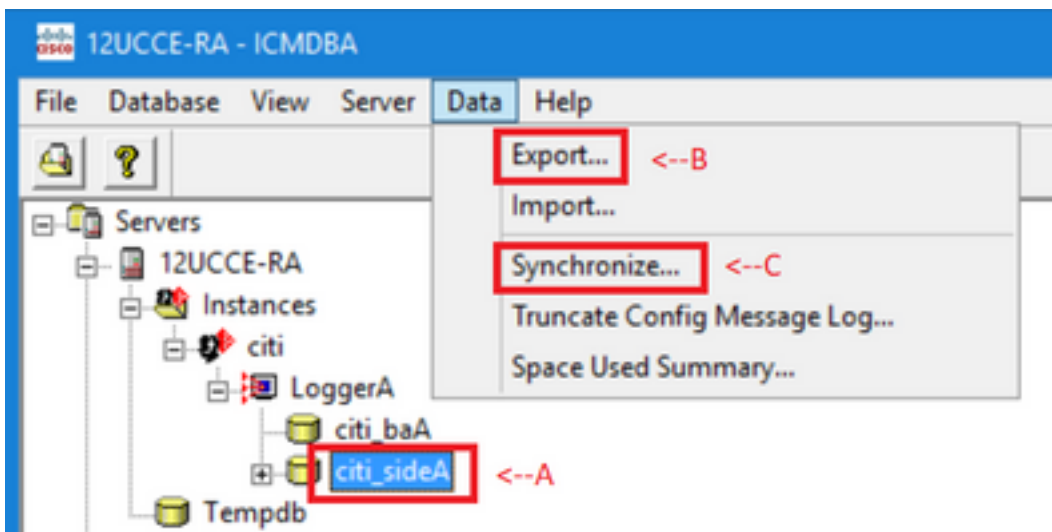
### 設定データのエクスポート

ロガー A とロガー B 両方の設定データをエクスポートするには、次の手順を実行します。

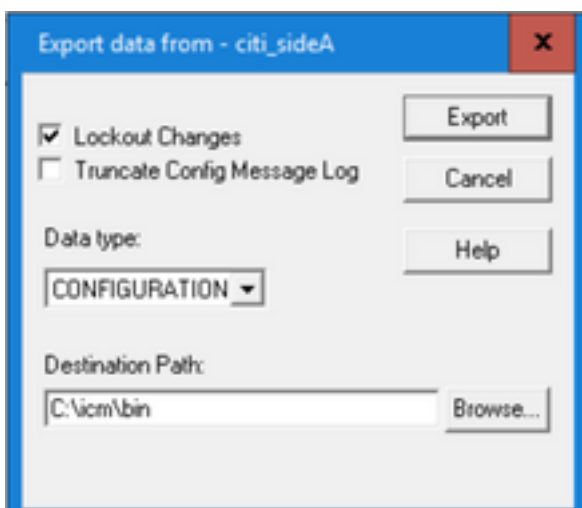
ステップ1 : ロガーサービスを停止します。

ステップ2:[Start] > [Run] を選択し、ICMDBAと入力して[OK] をクリックし、ICMDBAを起動します。

ステップ3 : 図の矢印Aで示されているようにデータベースを選択して、サーバ、インスタンス、およびノードを指定します。



ステップ4 : 図の矢印Bに示すように、メニューバーから[Data] > [Export] を選択します。



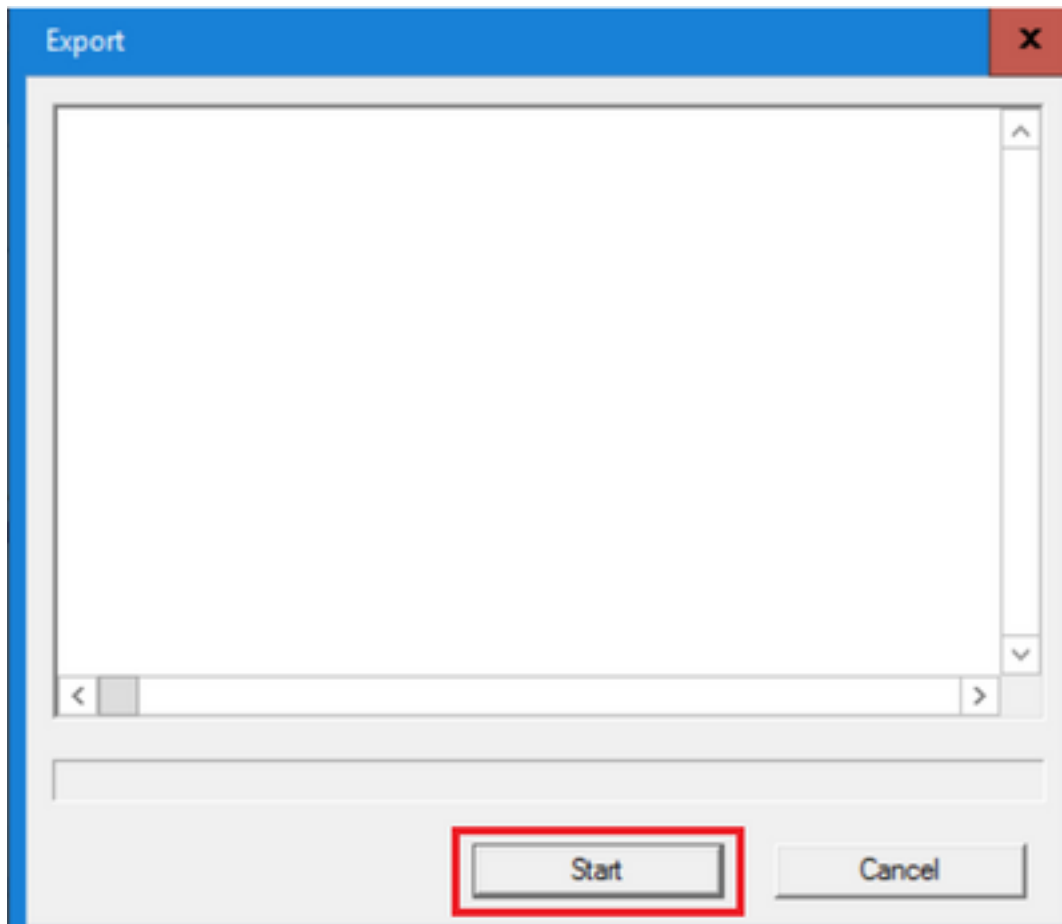
ステップ5:[Data type]ドロップダウンリストから[CONFIGURATION-]を選択します。

ステップ6:[Browse]ボタンを使用して、データ宛先パスを指定します。

ステップ7:[Lockout Changes]をチェックして、エクスポート中にデータベースが変更されていないことを確認します

動作.

ステップ8:[Export] をクリックします。



ステップ9:[Start] をクリックして設定データをエクスポートします。プロセスが完了すると、メッセージが表示されます

これは、アクションが成功したことを示します。完了するには、[OK] をクリックし、[Close] をクリックします。

ステップ10 : ログサービスを開始します。

## 設定データの同期

このプロセスは、ログからペアのログへ有効な設定データをコピーします。ログ データベースを同期するには、次のいずれかのセクションの手順を実行します。

ログAからログBに設定データをコピーします。

ログBからログAに設定データをコピーします。

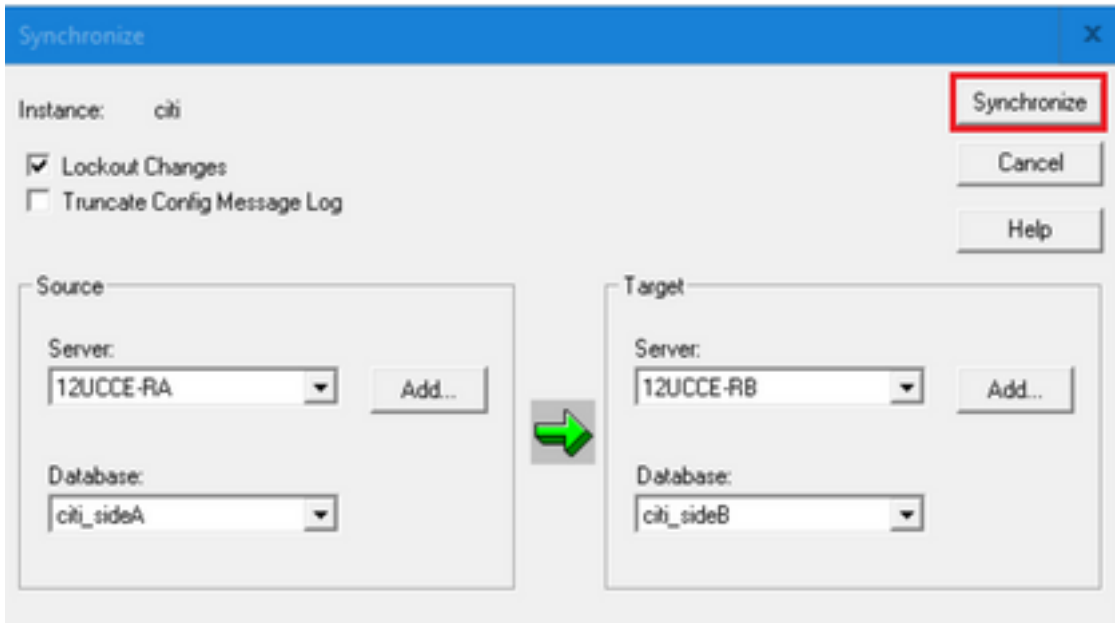
ログ A の設定データが有効で、そのデータをログ B にコピーするには、次の手順を実行してください。

ステップ1 : ログBのログサービスを停止します。

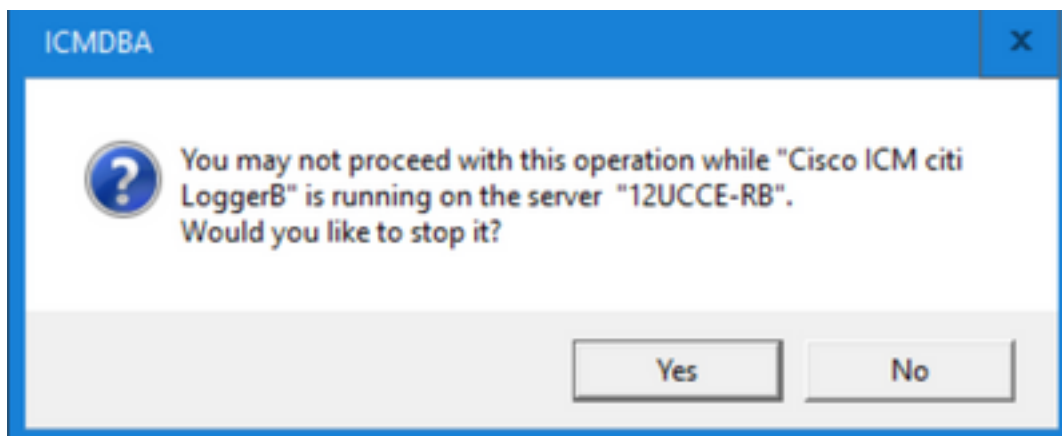
ステップ2 : ログAでICMDBAを起動し、ログAからログBに設定データをコピーするには、

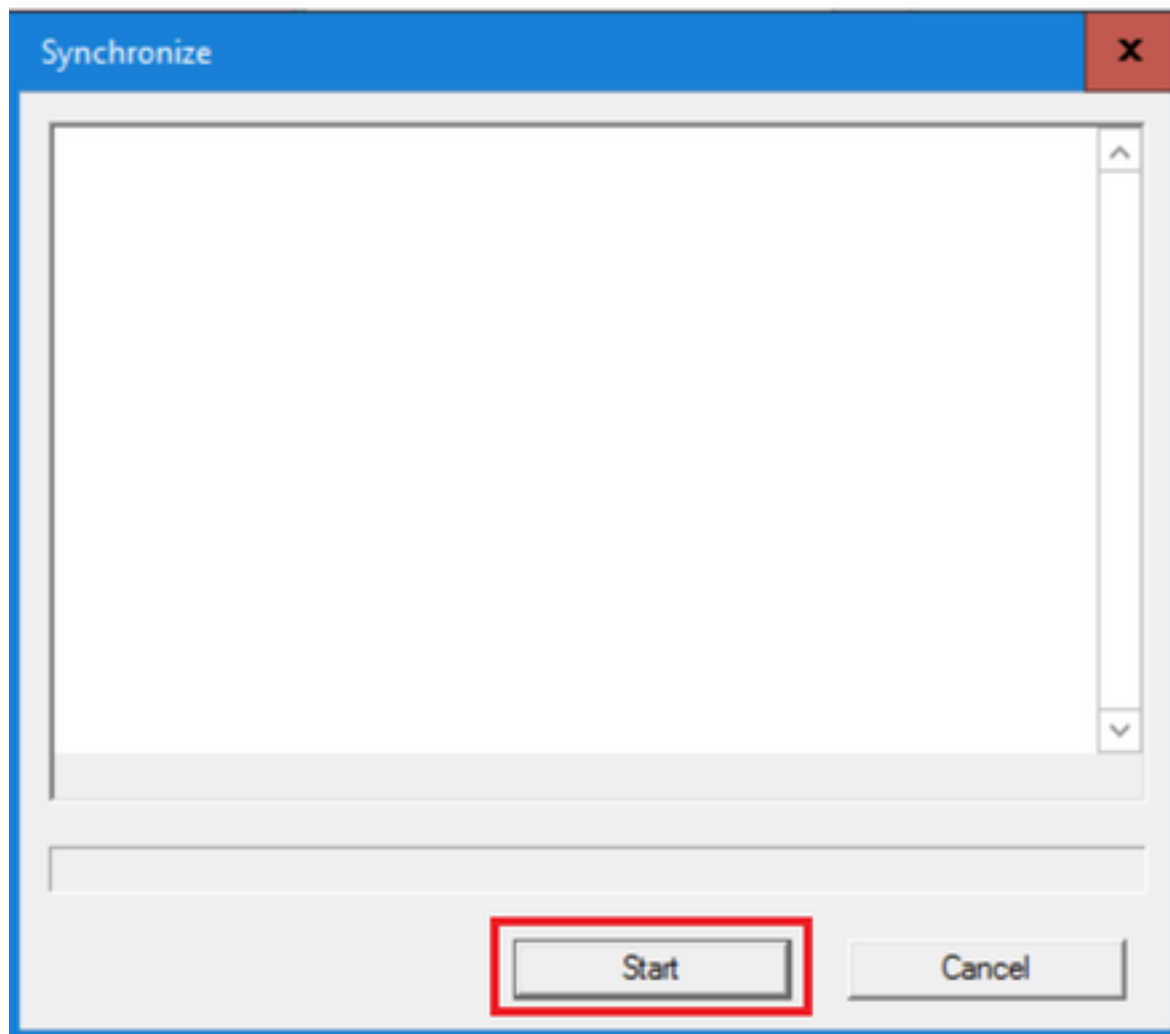
次の手順を実行します。ロガーAはソースで、ロガーBはターゲットです。

- a. 図の矢印Aに示すように、データベースを選択して、サーバ、インスタンス、およびノードを指定します。
- b. メニューから [Data] > [Synchronize] を選択します ( 図の矢印Cを参照 ) 。 [Synchronize] ウィンドウが表示されます。

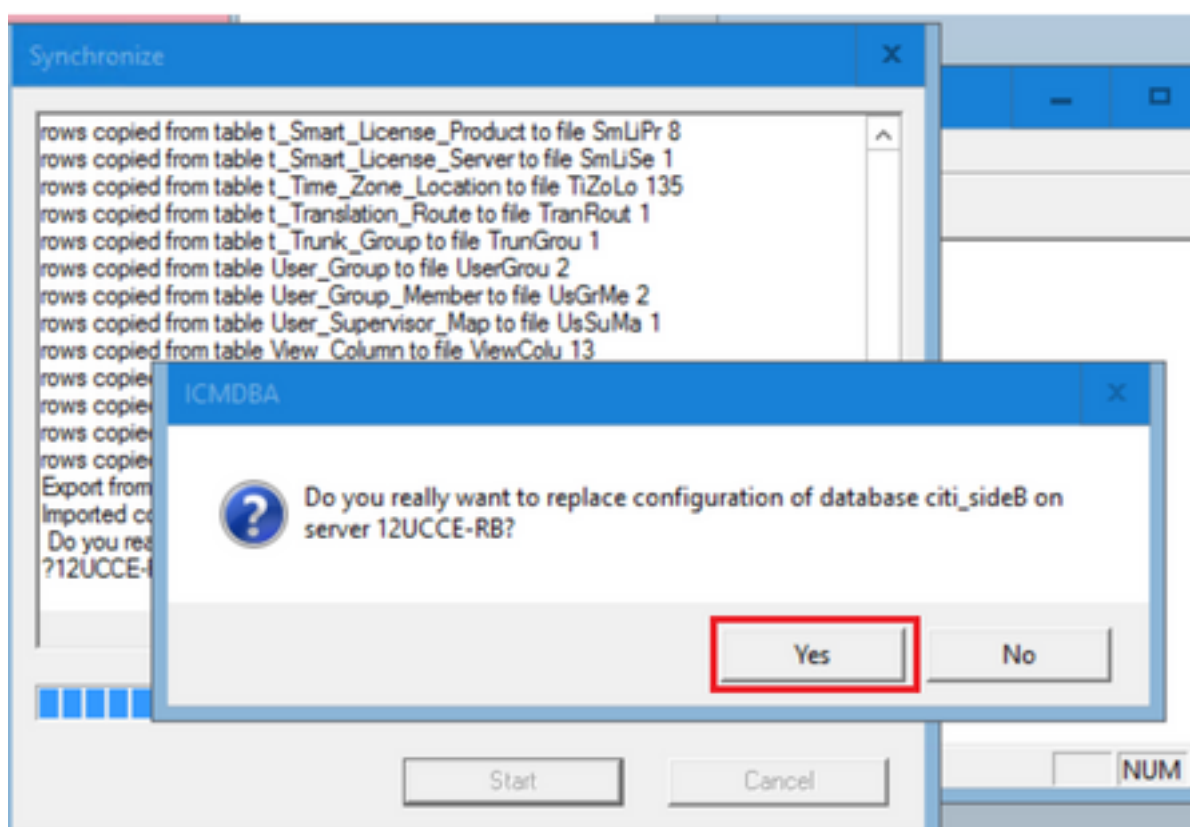


- c. [Lockout Changes] をチェックして、同期操作中にデータベースが変更されていないことを確認します。
- d. ソースとターゲットの両方のサーバー名とデータベースをドロップダウン・リストから選択します。 [Add] をクリックし、 [Add Server] ボックスにサーバー名を入力して、ドロップダウンリストにないサーバーを選択します。
- e. [Synchronize] をクリックします。  
[Synchronize] ボックスが表示されます。
- f. サービスが開始されると、図に示すようにポップアップが表示されます。サービスを停止するには、 [Yes] をクリックして先に進みます。これにより、ターゲット側のサービスが停止します。





g. データを同期するには、[Start] をクリックします。  
確認ウィンドウが表示されます。



h.設定データを置き換えるデータベース名と、データベースが存在するサーバ名を確認します。両方が正しいければ、[Yes] をクリックして続行します。プロセスが完了すると、アクションが成功したことを示すメッセージが表示されます。完了するには、[OK] をクリックし、[Close] をクリックします。

ステップ3：ロガーBでロガーサービスを開始します。

## オプション 2：手動同期：SQL Management Studio (例としてHDS 1からHDS 2へ)

HDS AとHDS Bの間でHDSデータベースデータを同期するには、次の手順を実行する必要があります (HDS AとHDS Bの間でHDSデータベースデータを同期するには、次の手順を実行します)。

1. HDS 1とHDS 1のHDSデータバックアップをエクスポートします。
2. HDSバックアップを破損したデータベースに復元します。(ここでHDS 2が破損しているため、HDS 1のバックアップをHDS 2に復元します)。

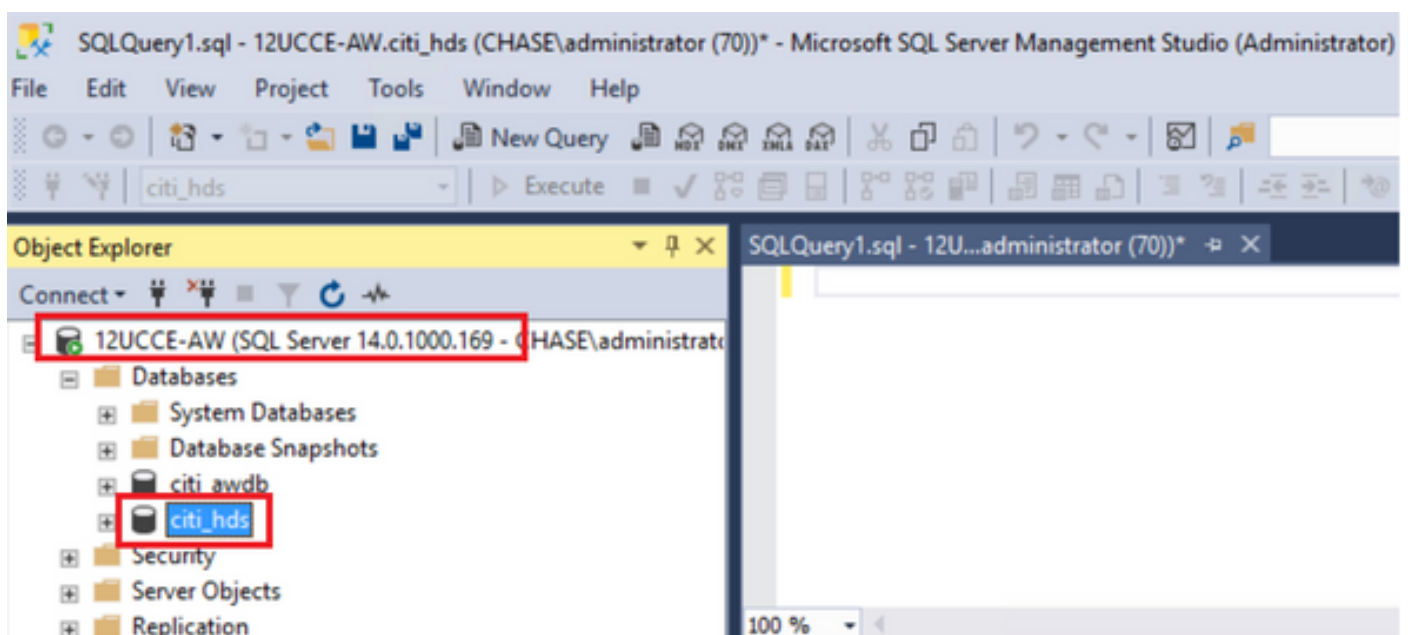
### HDSデータベースのエクスポート

HDS 1とHDS 2の両方のデータをエクスポートするには、次の手順を実行します。

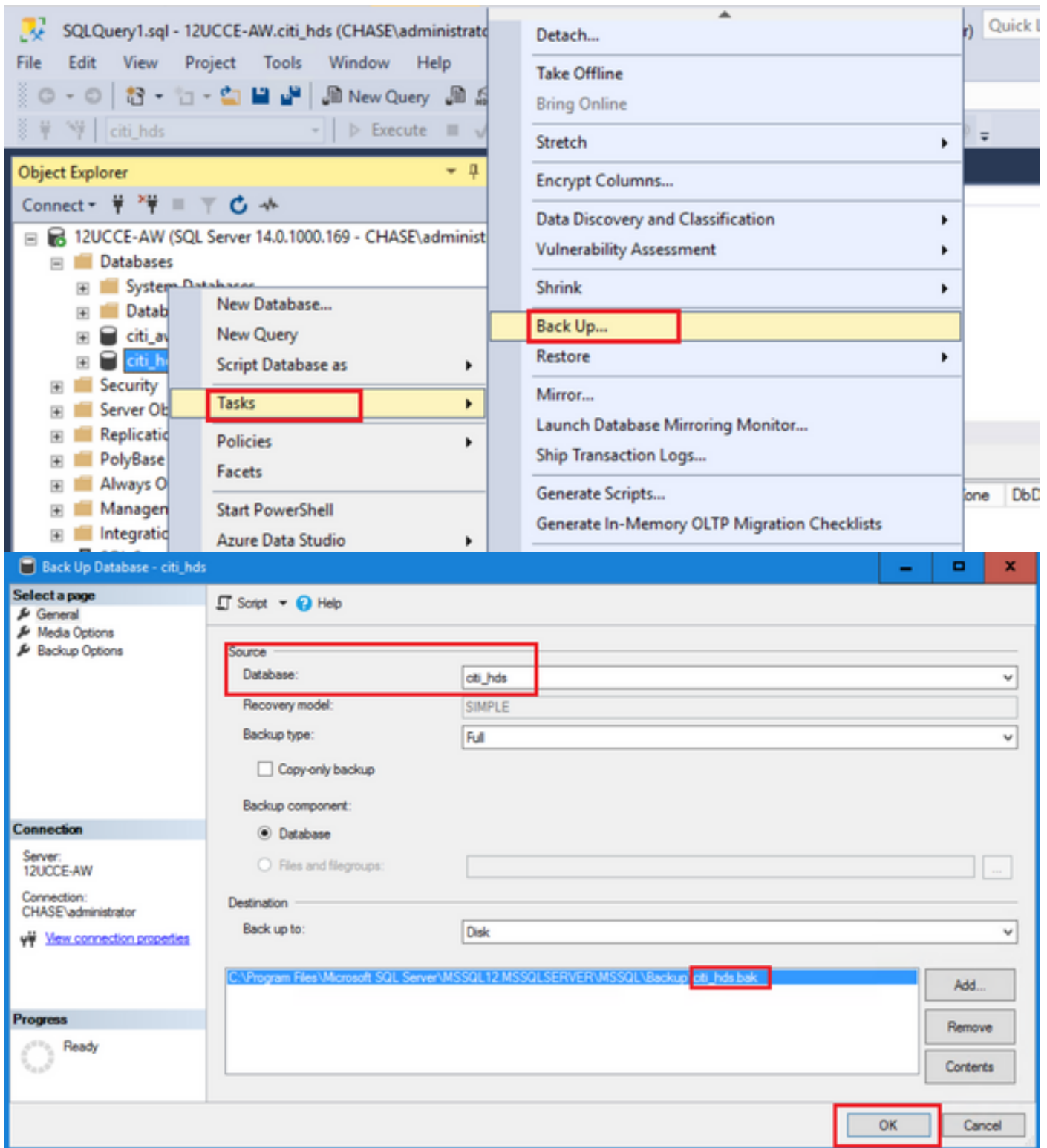
ステップ1：ディストリビュータサービスを停止します。

ステップ2:HDSサーバでSQL Management Studioを開きます。

ステップ3：図に示すようにデータベースを選択し、サーバ、インスタンス、およびノードを指定します。



ステップ4：データベースを右クリックし -> [Task] -> [Backup] を選択し、「.bak」ファイルとして保存します。



## HDSデータベースバックアップの復元

データをHDS 2にエクスポートして復元するには、次の手順を実行します。

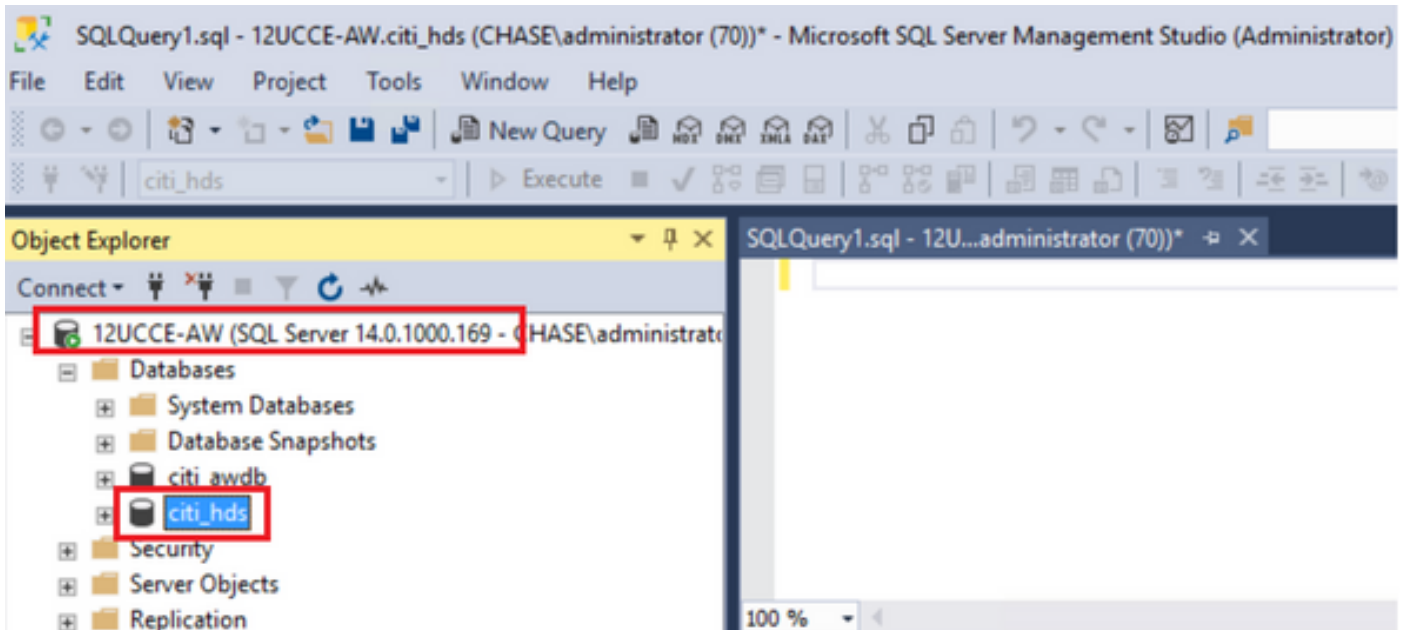
ステップ1: ディストリビュータサービスを停止します。

ステップ2:HDS 1のバックアップファイルを取得し、HDS 2サーバに転送/FTPします。

ステップ3:HDS 2サーバでSQL Management Studioを開きます。

ステップ4: 図に示すようにデータベースを選択し、サーバ、インスタンス、およびノードを指定します。





ステップ5：データベースを復元します。SSMSを使用し、FTP/転送を介してHDS 1から転送されたバックアップファイルを選択します。

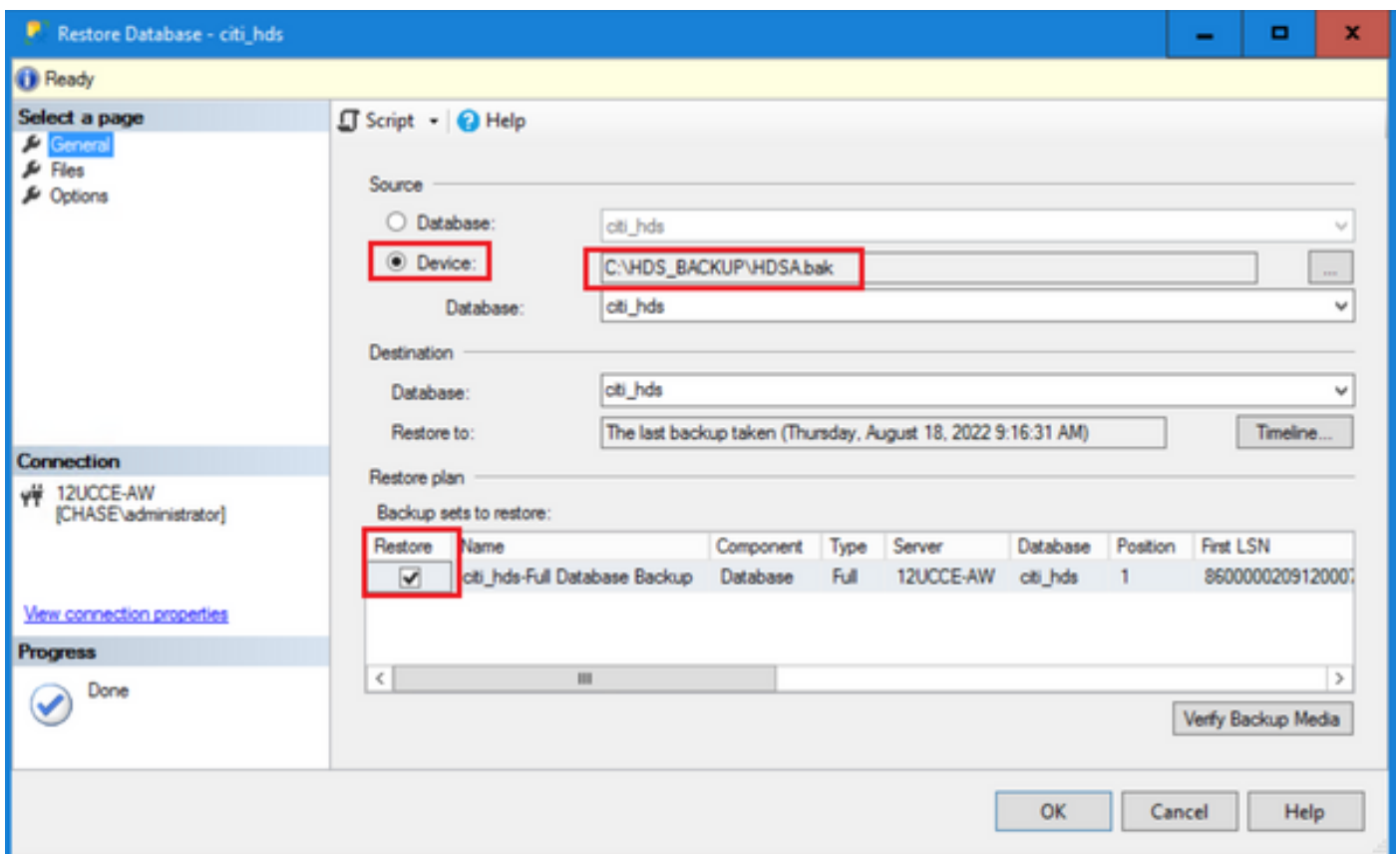
データベースを右クリック> [Task] > [Restore] > [Database]

From device ボタンを選択し、<database>.bak

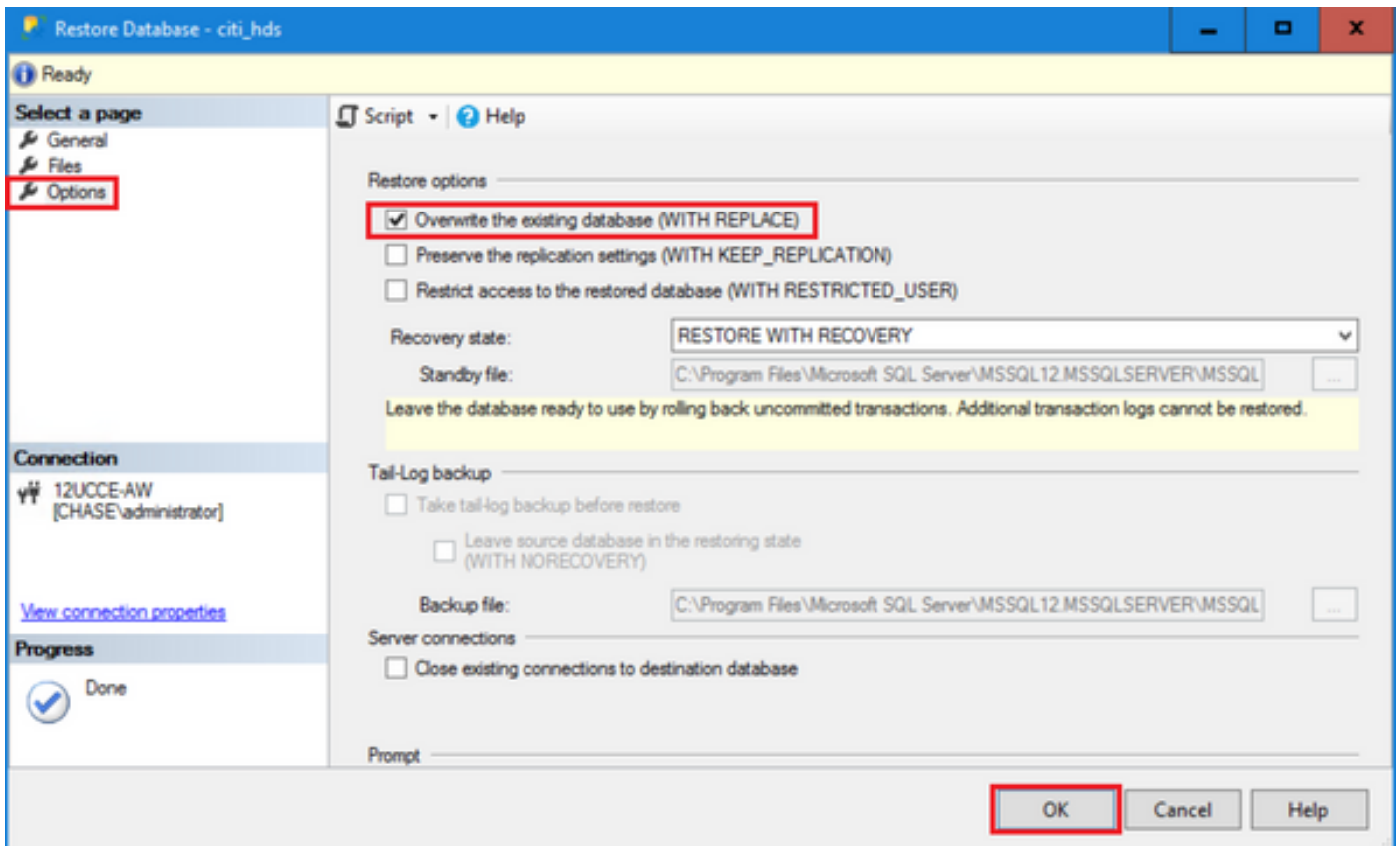
[Restore] をクリックし、チェックボックスをオンにします。

[Options] タブに移動し、[Overwrite] をクリックして現在のデータベースを上書きします。

[OK] をクリックします。







この復元では、破損のバックアップチェックの進行状況は表示されませんが、検証が完了するとインポートが開始されます。破損のチェックには時間がかかる場合があります。サーバの速度とデータベースのサイズによって異なります。

ステップ6：インポートが成功したら、HDS 2データベースに対して次のようにクエリを実行します。

#### テーブルの削除の回復

テーブルLogger\_Adminを切り捨てます ( Loggerデータベースのバックアップと復元を行う場合のみ。HDSには適用されません )。

これにより、データベース内のテーブル「Recovery」 ( つまり、テーブルのRecoveryのすべての行を削除 ) が切り捨てられます。

サービスが開始されると、バックアップが作成された後に、リカバリ・プロセスは他のHDSから履歴データ ( ロー ) を取得しようとしています。

ステップ7：ディストリビュータサービスを開始します。データが複製されるまで十分な時間を確保します ( ロガー -> HDS )。

ステップ8：この演習の最後で、ロガーAとロガーBの間、およびHDS1とHDS2の間で、最小DateTimeと最大DateTimeの両方が一致していることを確認します。

termination\_Call\_Detailからmax(RecoveryKey)を選択します。

termination\_Call\_Detailからmax(DateTime)を選択します。

termination\_Call\_Detailからmax(DateTime)を選択します。

ステップ9：また、ICMDBAを使用して、LoggerデータベースとHDSデータベースの両方のSpace

used summaryをmin DateTimeとmax DateTimeで確認できます。

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。